



新年のご挨拶

社友会会長 大西光男

仲間と互いに健康交流！

あけましておめでとうございます。
社友会会員の皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また平素より社友会運営にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年はコロナウィルス感染症も落ち着き、社会活動が平時へと回復し、社友会活動においても、総会・懇親会をはじめ、夏の暑気払いや秋のイベントを滞りなく開催することが出来ました。加えて右の写真のように「ウォーキング有志の会」の企画ともコラボし、現役世代（会員予備軍）との健康交流も図ることができました。

また、ホームページは内容も充実し、社友会からのタイムリーな連絡や情報共有、情報交換が可能になったと考えています。しかし、残念ながらホームページ会員の登録数が伸び悩んでいます。これを機に是非全員登録されるよう重ねてお願い申し上げます。

さて、今年は「乙巳」（きのとみ）の年です。

乙巳は、巳（蛇）が脱皮する様子から「復活と再生」を意味する縁起のいい年と言われています。社友会も、皆さんに喜ばれる活動を通して、成長を続けてまいります。

なお、本年度の社友会総会は同封のリーフレットのとおり、5月31日（土）に開催場所を「みなとみらい地区」に移し、開催を予定しております。多くの皆様に再会できることを楽しみにしております。

本年も、会員の皆様とご家族が、健康で明るい年になりますよう祈念いたします。



2月 松田山 河津桜（有志の会）



4月 湘南鷹取山（有志の会）



6月 千葉 鋸山（有志の会）



7月 暑気払い



8月 横浜 陣ヶ下深谷（有志の会）



10月 小田原 一夜城（有志の会）

【2024 健康交流】

会員の投稿記事

阿蘇へ移住して10年目

向井幸治さん

早いもので阿蘇へ移住してから今年の3月で10年目に入りました。その間、地震や噴火などに遭いましたが、その後は大きな災害もなく大自然の中で家族、ペットと楽しく暮らしています。大きな出来事と言えば、今年2月無事、古希を迎えられたことです。還暦の年に阿蘇に移り住み、古希を迎えた現在までの暮らしのトピックを思い出を交えながら、幾つか紹介したいと思います。

仕事は夜間警備

現在、週1,2回夜間警備の仕事をしています。時間は、17時から翌朝8時30分で仮眠もとることができます。警備をする前は、暖房用のパッケージボイラーと温水ボイラー（風呂）大ホールの暖房用熱風炉のオペレーターをしていましたが、仕事の内容は現役時代にしていた事と殆ど変わりませんでした。STRやバーナーチップなどの清掃、燃料の受入れや在庫管理、お風呂の残留塩素測定し薬品の注入量調整などでしたが、燃料高騰や環境問題などで3年前にボイラーは廃止となりました。

有難いことに失業した私のことを心配して下さり警備の仕事をしてみませんか、お誘い戴き受けることにしました。



「国立阿蘇青少年交流の家」の前で

夜間巡回中に野生の鹿救助

警備の夜間巡回では予想外な事が色々起こります。

巡回中グラウンドのサッカーゴールネットに鹿が絡み疲れ果てた様子でいました。絡んだネットを外そうとしましたが複雑に絡み容易ではなく時間が掛かりましたが、何とか解放することができ鹿は山へ駆けていきました。地元の人の人耳に入れば直ぐに飛んできてジビエになるところでした。

巨木倒壊

一昨年の8月、風雨の強い嵐の日に巨木（直径45cm）が倒れてきました。ものすごい音で雷が落ちたと思うほどで、DIYの薪棚とウッドデッキの屋根が凹み、軽自動車のガラスが割れる被害に遭いましたが、住居本体には被害は無くひと安心しました。

念願のキャンピングカー購入



昨年3月に欲しかったキャンピングカーを購入しました。年齢的にも運転できるのは長くて10年、今しかない。思い立ったら即行動。

一か月後には念願叶っていました。車は日産キャラバンNV350を車中泊用にビルダーがカスタマイズしたもので大人3人は就寝可能です。家電などいろいろ揃っていますが車中での料理は殆どせず、せいぜい朝コーヒーを飲むぐらいです。手始めは近場へ1～2泊の温泉巡りへ出かけました。



四国周遊の旅へ

昨年の10月、兄妹3人と犬一匹で一週間四国周遊の旅をしました。3人とも前期高齢者なので元気なうちに旅しないかと誘ったら「連れて行って」となり計画を立てました。

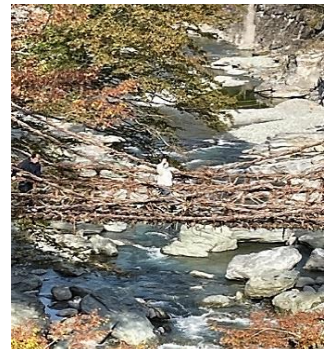
この旅でとても楽しみにしていた場所がありました。

それは秘境・祖谷溪の大歩危（おおほけ）、小歩危（こほけ）、かずら橋、更にその奥にある限界集落の案山子（かかし）の里です。

紅葉にはまだ早い時期でしたが車窓から見える溪谷の深さや断崖絶壁、エメラルドグリーン川面は迫力がありとても美しい景色でした。

200mの絶壁にある小便小僧は遠くから眺めましたが、昔はここで度胸試しをしていたそうです。

祖谷かずら橋は思ったほど怖くはなかったと妹は言っていました。足元の隙間は広くてキィキィと擦れる音はするし、揺れるし、手摺にしがみついて動こうとしない人もいて人を眺めているほうが面白い光景でした。



祖谷かずら橋

四万十川のうなぎと香川うどんを食す

食べるほうで楽しみにしていたのは四万十川の天然ウナギです。美味しんぼにも出てきた「四万十屋」に行き食べました。川を眺めながら贅沢な時間を過ごすことが出来、"うな重"を美味しく頂きました！

香川県では、うどん屋さん巡りをしました。

行列のできる有名店（がもう、山越、日の出長田など）は避けて地元の人に聞いた店に行きました。うどん県と言うだけあって、とても美味しく満足しました。



うなぎ四万十屋



2回の入院 移住してから2回ほど救急車のお世話になりました。

1回目は、引っ越して間もなく、みぞおちの痛みが激しくて救急車を呼び、胆のうを摘出しました。

2回目は、社友会総会が間近に迫った今年5月7日です。

お腹周りが痛く白血球の数値も異常に高く危険な状態なので熊本市内の病院へ救急搬送。超音波検査後、「腸間膜静脈血栓症」と診断され投薬治療を行うことになりました。

間に合った社友会総会出席

4日目、点滴から飲み薬へ変更、シャワーも浴びサッパリし、食事もお粥が食べられるようになりました。最終の検査結果は問題なく、5月15日退院、5月18日の社友会総会出席にギリギリ間に合い、安心しました。

健康が一番だとは分かっていますが、これからも適度な運動と食生活に気を付けてストレスフリーのスローライフを楽しみたいと思います。

特別行事

川崎登戸 生田緑地 散策

枅形山展望台 ～ 岡本太郎美術館 ～ かわさき宙と緑の科学館 ～ 日本民家園

2024年11月 9日 (土) 10時 JR「登戸駅」出発

天気  17°C

多摩丘陵の一角に位置する川崎最大の緑の宝庫、生田緑地を4時間30分散策しました。

当日は、晩秋としては暖かい絶好のハイキング日和で初参加1名を迎え総勢16名全員無事に1日を満喫しました。

参加16名：古川時(初参加)、山崎恒、桑原、三富、大前、林、田端、前田、村田勉、田内、淡嶋、大西
(幹事:中村、熊坂、込山、松本安)

①

枅形山 (標高84m) 展望台

鎌倉時代、源頼朝の侍大将、稲毛三郎重成が城を構えた跡地



展望台の上で



展望台から富士山が見えました



岡本太郎美術館 “母の塔”で

②

岡本太郎美術館

内観せず太陽の下でアートと自然の組み合わせを鑑賞しました

③

かわさき宙 (そら) と緑の科学館

川崎の自然に関する展示館にプラネタリウムが併設されています



昼食後、世界最高水準の最新型メガスターによるプラネタリウムの投影で、惑星や恒星が隠される“食”の現象を生解説で聞き45分間楽しみました。



静かな昼食風景

④

日本民家園

古民家を永く将来に残すことを目的に開園した古民家の野外博物館

主に江戸時代に建てられた東日本の代表的な古民家、水車小屋など25件をボランティアガイドさんの説明を聞きながら約1時間見学しました。



「旧太田家住宅」で全員集合



登戸駅前の居酒屋で反省会

東亜石油株式会社が百周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。百年という時間の中で私が働いた43年間は半分に満たないですが、川崎の製油所で育てて戴き、今の私があると思ひ、大変感謝しております。一人の保全マンが現場から見た東亜石油の一面を紹介致します。

私は、現在も他社で回転機の保全マンとして働き、東亜石油で育てて頂いた経験が今に繋がっています。

私が、昭和48年（1973年）に入社した年は、東亜石油は名古屋製油所が完成し、名古屋への要員も含め、100名の新入社員が東京の本社に集まり、その後、半数が名古屋に着任するというダイナミックな年でした。最初に配属された部署は、甲斐さんが課長だった1トッパー、NIP装置でした。1トッパーは、ガス化脱硫装置を作るために解体され、今のUCNマロックス装置辺りにありました。1トッパー蒸留塔を解体した後、基礎となっていた松の杭が生き生きとした姿で土から現れた時、見守っていた周りの人たちが驚いていました。

入社2年目プラントの基礎工事が始まる頃、稲田さんをチーフとする建設部の回転機担当に配属されました。回転機担当と言われても、初めのうちは何をするのか判らないままでした。書類や承認図面が数多く回覧され、それらに稲田さんが専門用語でコメントしていましたが、初めて聞く言葉ばかりで何を言っているのかさっぱり分かりませんでした。私の業務はこれらのコメントを書類に書き写すことから始まりましたが辞書を引いても判らない言葉ばかりでした。仕様書はエッソ（現エクソンモービル）スタンダードのBP（設計手引書）という書類で、これを理解することで石油会社の回転機とはどんなものであるかが判ってきました。回転機の保全の仕事は機械が動かないと始まりません。プラントが運転開始して、ここから建設エンジニアから保全マンへの立ち位置が変わりました。今も日々行っているメンテナンス業務の始まりです。

保全マンとしての面白みは、日々発生する難しいトラブルの原因を究明し、その対策を立て実行し、その結果として失敗しても再度見直し、最終的に改善し、喜んでもらった時に達成感を感じることです。

■ 以下に、回転機の保全マンとして思い出となっているトラブルと改善策の一部を紹介します。

1. F L G装置ポンプのエロージョンとコロージョン対策

ベンチュリースラリーポンプは、高速回転で高吐出圧力を出す為、スラリーによるエロージョン、コロージョンにより、インペラやポンプ内部が摩耗し短期間で性能低下しましたが、吐出圧力低下できないかプロセスを検討し、通常回転数（1,500回転/分）に変更することで摩耗は減少しました。

2. F L G装置 ウェットコーク脱水機問題

F L G装置から出るガスからコークスの粉を水洗浄し、そのスラリーを回収する為に「ベルトプレスフィルター」を使用しろ過していましたが、この布シートがよく切れたので、作業員と共に真黒になりシートの張替え工事を行いました。この問題を改善するため調査し内側を真空にして吸着脱水する「オリバーフィルター」を採用することで、トラブルも少なくなり長年使用してきましたが、今は目が細かな「フィルタープレス」という機械に代替わりしています。



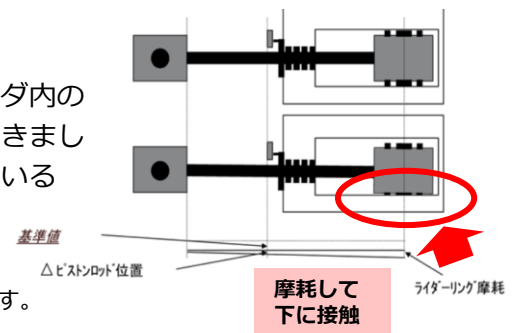
オリバーフィルター

3. N I P装置 無給油往復動 圧縮機の長寿命化

N I P装置の往復動圧縮機は、無給油式で大きなピストンをテフロン製の腹巻で覆い、荷重を支えています。また、圧縮時発生する熱を取るため、シリンダは水で冷却していましたが、シリンダ内で凝縮して表面のテフロン膜が洗い流されピストンとシリンダが接触するのを避けるため、接触直前を推測して3ヵ月毎に開放点検を繰返すという問題がありました。

この問題は、係長の柴山さんと改善策を検討しピストン改造、更にシリンダ内のコンデンス対策として、冷却水から温水ジャケットに変更して寿命延長ができました。ただ、ピストンとシリンダのギャップを見るために、軸振動計で使っているギャップセンサーを取付け、停止時期を予測するシステムを作ることで、停止せずに監視しながら連続運転が可能になりました。

※このシステムは専門メーカーから「ロッドドロップシステム」として販売されています。



4. FWS装置のポンプメカニカルシール漏れ対策

FWSでの問題点は、排水の汚れでポンプのメカニカルシールがクッション不良となりよく漏れていたことです。この対策として、メカニカルシールを二重にしクッション部を汚れた排水から縁切りし、冷却用のフラッシング水として工業用水を入れ、メカニカルシールを保護することで寿命延長することができました。

5. FCC装置のエキスパンダータービン翼 寿命延長

FCC装置からの排ガス熱エネルギーをエキスパンダータービンで発電していますが、排ガス中には多量の触媒粉が含まれ、タービンの羽根や根元が摩滅するため、毎年予備ロータと交換していました。

他社を調査した結果、殆どの会社は当社と違うメーカー製で、エロージョンは問題となっていないことから他社例を参考にした対策は断念しました。

そこで羽根本体を強化するハードフェーシング方法を調査し、特殊金属を「爆着」という高温高圧で硬い皮膜を溶着する技術を適用することで、複数年まで寿命延長ができました。



気温35℃堅型ポンプ修理現場でドライアイス
を服の下に入れた空調服姿の私です。

6. 圧縮機使用のガスシールをポンプとルーツブロワーへ採用

圧縮機で使用するガスシール技術を、ポンプやルーツブロワーのメカニカルシールへの採用をシールメーカーと共同で取組み、長寿命化を達成しました。

チャレンジングな計画を実行させていただき、保全マンとして楽しい時間を与えていただきました。私が働いてきた時期は、ちょうど高度経済成長期から、石油会社の統廃合が始まった時期まで、個人的に成長するエネルギーと会社が成長するエネルギーがマッチングして、楽しい会社員生活ができたと感謝しています。

今は、若い保全マンと共に、今までの経験を伝え、設備の安全を下支えし、安全な社会となることを目標にしていきたいと思っています。

【注：原文は、社友会ホームページに掲載していますので参照願います】

会員の投稿記事



ウクレレサークルの発表会

谷川元秀さん

8月25日に発表会があり、今は少しのんびりしているところです。

私は、江戸川区がサポートしているウクレレのサークル「カノア」に所属しており、毎週集まってハワイアン🌺を練習しています。活動は、年に2回の発表会があり、他に江戸川区文化祭時のステージがあります。また、ボランティア活動も行っており、江戸川区にある施設に行ってウクレレの演奏、歌謡曲、民謡など聞く人に合わせて施設を毎月訪問しています。

ウクレレの曲といっても、何百曲もありますので、歌うだけでなく、インストルメンタルとして、ウクレレの技能が必要な曲も沢山あり、アンプ、マイク、など使用して、より良い音を出すように心掛けています。

でも、サークルで一番大事な事は、皆で、楽しく練習することと、練習が終わったら、お昼を一緒に食べたり、ついでに飲んだりする事と、思っています。本番が、上手くいこうがいくまいかは、時の運です。

今回の発表会は、24グループ(出演者延214名)が発表しましたが、我がサークル発表の様子はYou Tube「Kolohe club カノア」で見られますので聞いてみてください。



「カノア」の仲間たちと



発表会の様子



私、バンマスしています

八巻元社長の訃報に接し、八巻所長時代の色々なことが走馬灯の様に浮かんで来ました。謹んでご冥福をお祈り致します。

私と八巻所長の一番の思い出は、私が製造三課長を拝命したばかりで日々張り切っていた頃、勤務の帰りに通勤途上災害に遭った際の巡り合わせです。会社はコスト削減（東亜石油は精製費が高い）と高圧ガス保安法の自主保安認定事業所資格取得に躍起になっている時期でした。八巻元社長を偲びながら当時を振り返ってみたいと思います。

私は平成3年（1991年）4月、通勤災害・交通事故で左足首を開放性粉碎骨折し、入院生活をしました。入院中は大勢の職場の仲間（先輩や後輩）がお見舞いに来てくれ励ましてもらったことは本当にありがたく感謝の気持ちで一杯でした。2ヶ月くらい経った頃、八巻所長が思いもかけず見舞いにお見えになりビックリしたことがあります。緊張して何を話したか覚えていないのですが、「大西君は何をやりたいかな？・・・」と言われたことが頭から離れず、早く治さなければ帰る場所はないだろうなと思いつつ、その晩、病院のくすんだ天井を見ていたのを思い出します。

7ヶ月後、やっと退院でき、職場復帰できました。しかし、半年以上足首固定の装具を装着し、松葉づえをつきながらの通勤でしたので、八巻所長には、時差出勤の許可、業務は製造部付のデスクワークなどいろいろご配慮いただきました。この頃、製油所の自主保安認定事業所の資格取得（2年連続運転）申請書作成が最終段階にありましたのでこのチームの担当になりました。

11月27日午後、認定チームの会議に出席していた時、救急車のサイレン音がし、構内に入って行きました。これが、東亜が初めて経験する協力会社作業員が殉職されたLEの火災事故でした。

この事故は設備が高圧ガス設備であったために認定事業所資格申請ができなくなり、行政官庁（県工業保安課）からは再発防止・改善策を求められ、設備工事、日常保全工事や運転方法の変更等いわゆる非定常作業にかかわる安全の内部監査を行う部署として安全監査課を設置することを工業保安課に確約されたと聞きました。

平成4年2月、環境安全部に「安全監査課」が設置され、私が初代課長に任命されました。

安全監査課長の人選の際、「事故で死にそうになり、事故の怖さを知り、周りの関係者に迷惑をかけることを体験し、所掌に一番適任の大西がいる」という八巻所長の一言で決まったと後に上司から聞かされました。

当時、京浜コンビナートの事業所には保安管理を内部監査する部署を設置している事業所はなく東亜の「安全監査課」は話題になり注目されました。製油所内部では自主保安上の3管理部門（製造、工務、環境安全）の独立対等と相互干渉により、安全意識が醸成されていきました。数年後、工業保安課から“認定事業所申請許可”が下り、認定事業所現地審査では安全監査課という安全に関する社内監査部署を設置していることが環境安全部門のプレゼンテーションの目玉でした。そして、認定事業所の資格を取得しましたが、八巻所長として在任中に取得できなかったことが悔やまれます。

（取得時は社長に就任され大所高所から参画されていました。）

大怪我をし、不良品となった私その後、約15年間、恵まれたサラリーマン人生を過ごし、無事終えることができたのは八巻所長が安全監査課長に任命してくれたおかげでした。本当にお世話になりました。

八巻社長 製油所長時代にはトラブル続きでご心配、ご苦労ばかりおかけし、申し訳ありませんでした。

そちらで松木さん、岸部さん、渡邊さん、福原さんと苦労話をされているのでしょうか？

どうか安らかに眠りください 合掌





裕ちゃんとは6月まで毎月ゴルフをしていましたね。7月に裕ちゃんより、メールにて緊急入院し、病状や手術後の経過、入院生活等の連絡があり、退院後、経過も順調であり、養生して体力の回復に努めるということでした。

この度、突然の訃報の連絡を受け、信じられず、いまだ受け入れることができていません。

裕ちゃんとは、東亜石油に私が2年先に入社し、誠実な性格に馬が合い、5時以降の付き合いとゴルフ等で親交を深めてきました。この関係は今までも続いていました。

又、海外、国内でのゴルフ旅行も行い、今年11月には、下関でのゴルフ&河豚旅行を、非常に楽しみにしていました。

一緒に行くことができない裕ちゃんは非常に心残りであったと思います。

裕ちゃんは、退職後も定期的健康検査をこまめに実施し、又、スポーツクラブ通いで、健康、体力には非常に自信を持っていました。我々の仲間は加齢で体力低下に悩んでいましたが、裕ちゃんは現役時に近い体力と健康維持でゴルフはますますレベルアップしていました。

今後の人生を大いに楽しみたいと思っていた山本さんと、今後、一緒にできなくなったのが非常に残念です。裕ちゃん、今まで沢山の楽しい思い出有難う。

さようなら、天国から我々の活動を見守ってください。

ご冥福を心から祈っています 合掌

伝 言 板

ホームページ会員とEメールアドレス登録について 再度のお願い

社友会では社友会活動や会員情報などの伝達方法として、今年からEメールとホームページを主体に活用した運用に移行すべく予定しております。つきましては、会員の皆さまとの情報交換手段を確立するため、ホームページの会員登録及びEメールアドレスの未登録の方は、ぜひ登録頂きたく宜しくお願い申し上げます。

- ◆Eメールアドレス登録：toashayuukai@kind.ocn.ne.jp または mitsuoyokosuka@ybb.ne.jp へ空送信
- ◆ホームページ会員登録：東亜石油社友会ホームページを開き、「ホームページ会員登録」から手続き

お悔やみ申し上げます

山本 裕 さん 令和6年9月7日(満73歳)
岩本 治 さん 令和6年9月15日(満87歳)

2025年 長寿の祝い

(令和6年12月1日現在 会員数 193名)

米寿(1937年誕生)

川島 弘 さん(1月18日)、甲斐 種千代 さん(3月27日)
阿部 保 さん(4月17日)、斉藤 照男 さん(11月15日)

喜寿(1948年誕生)

小谷 一男 さん(1月25日)、小島 昭次 さん(1月28日)
寺田 信幸 さん(4月4日)、結城 正 さん(6月6日)、百瀬 二三男 さん(8月8日)
山口 隆二 さん(8月27日)、前田 耕二 さん(9月8日)

以上、対象の方には四半期ごとに記念品を贈呈致します

時期	行事	開催場所	開催時間・その他
3月29日(土)	春のハイキング	大岡川沿い 花見散策	10時 京急線 弘明寺駅 集合
5月31日(土)	2024年度 第32回 総会・懇親会	神奈川県民共済プラザビル メルヴェーユ 6階「ヴァランセ」 JR「桜木町駅」から徒歩3分	13時～15時 ★会場は変更となっています
7月19日(土)	みんなで元気に！ 暑気払い	ホテル メトロポリタン川崎 「Terrace and Table」	17時～19時
11月15日(土)	秋のハイキング	立川市 国営昭和記念公園	10時 JR立川駅 北口集合

● 行事の内容変更、中止、臨時開催等日程や内容が変更になる場合があります。
その際は、早急に「社友会ホームページ」でお知らせしますのでご覧ください。

春のハイキングのご案内

大岡川沿い花見散策

春空の中、桜並木を散策してゆっくり時間を過ごそう



- 開催日 **2025年3月29日(土) 雨天順延**
雨天時は 4月5日(土) に計画します
- 集合場所と時間 京急線 弘明寺駅前 10時集合
- コース
大岡川沿いを花見散策しながら、みなとみらい/桜木町駅方面まで
- 費用 交通費および食事・飲食代は各自負担
- 応募方法 2025年2月中旬、会長から会員宛てメールで実施案内の予定です。
参加希望者は、このメール (mitsuoyokosuka@ybb.ne.jp) で返信連絡して下さい。
- 募集の締め切り 3月15日(土) 厳守**
- 本件問合せ先 【行事委員】 中村睦夫 熊坂真紀

60歳の還暦を迎える頃になると学生時代の同窓会が多く開催されるようになるようです。私の場合、高校時代の同窓会(十旅行)が企画され一大イベントでした。それから10年近く経ち未だに理由を付けて様々なグループが集まっていますが、学生時代には一度も話したことのない人と話す機会が多々あります。

話しは中学時代に遡ります。私は当時バスケット部でした。南部地区一位で市大会に臨みましたが別の地区三位のF中学と対戦し思いもかけず敗れてしまいます。私がガードすべき相手選手にロングシュートを多数決められたことが敗因です。(今風に言うとうスリーポイントシュートでしょうか)高校に入学しバスケット部に入部すると、なんとロングシュートの達人O君も入部してきたのです。

残念なことにO君は若くして亡くなりましたが、高校の集まりでO君の思い出話から中学時代の市大会のことを話すと、話したことも無かったI君が「その試合に俺も出た、キャプテンやったんだよ」と言い出し一同「ええ〜」と驚き。同じコートに立ち対戦相手として戦った感覚を50年の時を超えて共有することができた瞬間でした。一瞬で意気投合したのは言うまでもありません。

年を経ると苦かった思い出も懐かしいものにも変わるかもしれません。思い出が薄れる前に多くの人と語り合いましょ。

会社時代の同窓会である社友会にも沢山の驚きが隠れているはず。多くの方々
(K・K)

